

スポーツ山形



(公財) 山形県体育協会



2012 ぎふ清流国体

レスリング

成年グレコローマンスタイル84キロ級

優勝

ぎふ清流国体(本大会)

ボクシング成年バンタム級
林 国孝(きらやか銀行)



1 位

◇レスリング

成年グレコローマンスタイル84kg級 鶴巻 幸 (自衛隊体育学校・米沢工高出)

◇カヌースプリント

少年女子カヤックフォア500m 谷地高 (安達楓香、佐藤優莉、保科滯唯華、古郡樹里)
少年男子カヤックペア500m 谷地高 (白田駿、真壁優)
少年男子カヤックペア200m 谷地高 (白田駿、真壁優)
少年男子カヤックシングル200m 古沢 康太 (谷地高)

2 位

◇カヌースプリント

少年女子カヤックペア200m 谷地高 (早坂枝里、齊藤光里)
少年女子カヤックフォア200m 谷地高 (安達楓香、佐藤優莉、保科滯唯華、古郡樹里)
少年男子カヤックシングル500m 古沢 康太

◇馬術

成年男子ダービー 秋葉 友勝 (湯の町乗馬クラブ)

◇陸上

少年男子Aやり投げ 宮田 涼 (山形中央高)
少年男子A400m 山木 伝説 (九里学園高)

◇ウエイトリフティング

少年85kg級スナッチ 鉤持 翼 (鶴岡工高)
少年85kg級ジャーク 鉤持 翼 (鶴岡工高)

◇ボクシング

成年バンタム級 林 国孝 (きらやか銀行)

3 位

◇バスケットボール

少年男子 山形選抜

◇陸上

少年男子共通800m 木伏雄太郎 (東海大山形高)
少年女子B100m障害 吉田 菜穂 (九里学園高)

◇バレーボール

成年女子 パイオニアレッドウィングス

4 位

◇水泳

競泳少年女子B200m個人メドレー 西脇 怜奈 (鶴岡南高)

◇ライフル射撃

成年男子エアライフル立射 (60発、決勝10発) 阿部 洋 (バイクショップ・ロミオ、南陽高出)

◇セーリング

成年男子ウインドサーフィン級 寒河江聡志 (パナソニックシステムソリューションズジャパン・日大山形高出)

◇ウエイトリフティング

成年69kg級スナッチ 三田村和真 (イサワ工業)
成年69kg級ジャーク 三田村和真 (イサワ工業)

◇陸上

少年男子A110m障害 江口 悠貴 (九里学園高)

◇フェンシング

成年女子エペ 山形選抜 (市川倫子、遠藤知沙、荒井夏実)



カヌースプリント500m少年女子カヤックフォア
安達 楓香・佐藤 優莉・保科滯唯華・古郡 樹里(谷地高)



カヌースプリント200m少年男子カヤックペア
白田 駿(右)・真壁 優(谷地高)

躍進チーム山形

山形県選手団総監督 佐藤 通隆



岐阜県下で開催された今年の第67回国体が終了した。本県は、男女総合28位、女子総合27位と、昨年の順位から大きく躍進することができた。

戦況から言えることは、①スキー・スケートの冬季競技が善戦し本大会に繋いだこと。②最後まで全力で戦う「チーム山形」の意識が非常に高く、まさに戦う集団に徹していたこと。バスケットボール少年男子、フェンシング成年女子、バレーボール成年女子などの入賞は、チームが一つになって最後まであきらめない執念もたらした勝利といえる。

③今年も大量得点獲得に貢献したカヌーやバスケットボールを始めとするバレーボール・フェンシング・剣道などの団体競技と、スキー・スケート・陸上競技・水泳・ライフル射撃・馬術・レスリング・ボクシング・ウエイトリフティング・セーリングなどの個人競技がうまく絡み合って健闘し、理想的な国体の戦い方をしたことである。結果として、優勝7種目含め、昨年を14上回る69の入賞を獲得した。

監督、コーチ、選手の皆さんのこれまでの努力に対し敬意を表するとともに、強化活動にご理解をいただいた多くの方々に謝意を申し上げます。

各県の、競技力の総合的なバロメーターを示すと言われる国体総合順位において、今後本県が安定的に全国中位に位置する成績を確保するためには、全国ベスト8以上の力を有する得意競技の拡大を図ることや、小・中・高の連携のとれた少年スポーツの育成の充実を図ること、指導者の計画的な養成などが課題となる。

今年は、べにばな国体開催から20年の節目の年。ここを再スタートに、力強いスポーツ山形の構築に向けて進もうではありませんか。



陸上少年男子Aやり投げ
宮田 涼(山形中央高)



カヌースプリント200m少年男子カヤックシングル
古沢 康太(谷地高)

東日本大震災復興支援

第67回国民体育大会



陸上少年男子A400m
山木 伝説(九里学園高)

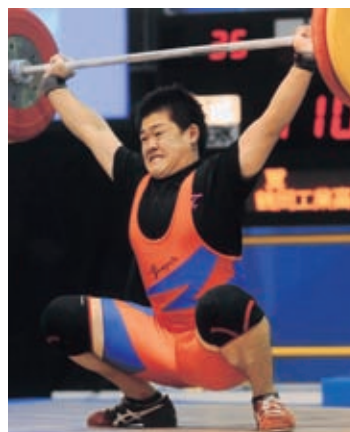
天皇杯・皇后杯総合得点一覧表

■夏・秋季入賞者 48

順位	都道府県名	男女総合 (天皇杯)	順位	都道府県名	女子総合 (皇后杯)
1	岐 阜	3,028.5	1	岐 阜	1,460
2	東 京	2,031	2	東 京	1,008.5
3	愛 知	1,960	3	愛 知	931
4	埼 玉	1,922	4	埼 玉	899.5
5	大 阪	1,594.5	5	福 岡	737.5
6	神 奈 川	1,490	6	大 阪	725.5
7	千 葉	1,444	7	千 葉	722
8	京 都	1,429	8	兵 庫	715
9	福 岡	1,413	9	京 都	681.5
10	北 海 道	1,406	10	神 奈 川	680
11	兵 庫	1,401.5	11	北 海 道	675.5
12	広 島	1,148.5	12	熊 本	615.5
13	岡 山	1,137	13	静 岡	604.5
14	静 岡	1,103	14	岡 山	578.5
15	山 口	1,066.5	15	山 口	571.5
16	群 馬	1,052	16	群 馬	565.5
17	長 野	1,026	17	長 野	565
18	栃 木	1,005.5	18	広 島	562
19	大 分	955	19	栃 木	546
20	長 崎	939.5	20	大 分	536
21	和 歌 山	934.5	21	新 潟	520.5
22	新 潟	933	22	福 井	512
23	熊 本	930.5	23	長 崎	510.5
24	福 井	916	24	石 川	488.5
25	宮 城	905	25	香 川	486.5
26	石 川	904.5	26	宮 城	482.5
27	富 山	891	27	山 形	480
28	山 形	883	27	富 山	480
28	香 川	883	29	滋 賀	466
30	佐 賀	846	30	佐 賀	464.5
31	鹿 児 島	845	31	愛 媛	459
32	滋 賀	819	32	鹿 児 島	456
33	茨 城	817.5	33	秋 田	452.5
34	愛 媛	817	34	茨 城	442.5
35	奈 良	814.5	35	山 梨	437.5
36	秋 田	814	36	鳥 取	436.5
37	宮 崎	794.5	37	和 歌 山	433
38	三 重	792.5	38	奈 良	421.5
39	岩 手	790	39	宮 崎	414.5
40	青 森	770.5	40	岩 手	408
41	山 梨	751	41	青 森	396
42	沖 縄	694	42	高 知	372
43	福 島	685	43	徳 島	367.5
44	鳥 取	660.5	44	福 島	363
45	島 根	597	45	三 重	330
46	徳 島	597	46	島 根	328
47	高 知	567	47	沖 縄	310
合 計		50,205	合 計		26,099



カヌースプリント200m少年女子カヤックペア
早坂 枝里(左)・斉藤 光里(谷地高)



ウエイトリフティング少年85kg級
釧持 翼(鶴岡工高)



馬術成年男子ダービー
秋葉 友勝(湯の町乗馬クラブ)

5 位

- ◇水 泳
競泳少年男子A200mバタフライ 渡会 舜(酒田光陵高)
- ◇馬 術
成年男子トッブスコア 二位関 堯(湯の町乗馬クラブ)
- ◇剣 道
少年女子 山形選抜
- ◇バスケットボール
成年男子 山形選抜
少年女子 山形選抜
- ◇ライフル射撃
少年男子チームピストル立射(40発、決勝10発) 中瀬 敦尋(南陽高)

- 少年女子エアライフル立射(40発、決勝10発) 神保 茜(南陽高)
- 少年女子チームピストル(40発、決勝10発) 須貝 桃子(山形城北高)

- ◇レスリング
少年フリースタイル84kg級 高砂 涼(山形商高)

- ◇陸 上
少年女子共通800m 小野 莉奈(上山明新館高)
- 少年女子B200m 佐藤日奈子(酒田南高)

- ◇ボクシング
成年ウェルター級 佐藤 大地(早大・日大山形高出)

6 位

- ◇水 泳
競泳成年女子100mバタフライ 渡辺 耶唯(神奈川大・日大山形高出)
- 競泳少年女子B100m自由形 渋井 柚実(日大山形高)
- 競泳成年男子100m平泳ぎ 小関也朱篤(日体大・羽黒高出)
- 競泳少年男子B100m平泳ぎ 渡部 太一(酒田東高)

- ◇馬 術
少年スピードアンドハンディネス 川島 雅子(山形北高)

- ◇ライフル射撃
少年女子チームライフル立射(40発、決勝10発) 石山 南(山形城北高)

7 位

- ◇水 泳
競泳少年女子B50m自由形 渋井 柚実(日大山形高)

8 位

- ◇水 泳
競泳少年女子B400mリレー 山形選抜(長谷川鼓、渋井柚実、西脇怜奈、黒田莉央)
- 競泳少年男子B100m背泳ぎ 江本 樹(山形五中)

- ◇ライフル射撃
少年女子チームライフル立射(20発) 石山 南(山形城北高)

- ◇馬 術
少年標準障害飛越 工藤 俊毅(山形南高)

山形県で開催された「べにばな国体」から今年で20年。この節目の年を、スポーツ関係者が一致協力して、本県スポーツの再興・飛躍へのスタートにしようと、県体育協会並び県教育委員会主催の事業「山形のスポーツ、躍進を目指して」を開催しました。

この企画は、「山形の将来の子どもたちのために」と寄せられた山形南ロータリークラブの善意を受けて、3回にわたって講演やシンポジウムを行いました。

《Part 2》「躍進! やまがたの子どもたち」 ～少年スポーツの振興～

平成24年6月30日(土): 山形県総合運動公園(天童市)

・子どもたちのランニングクリニック

講師: 五十嵐 徹 氏(山形北高陸上部監督)・熊坂 香織 氏(スポーツ山形21)・田中 幸 氏(同)

・トーク「躍進・山形の子どもたち～強くなるヒント」

トークリーダー: 池田めぐみ 氏(県体育協会スポーツ指導員/フェンシング・アテネ・北京両五輪出場)

メンバー: 加藤 条治 選手(スピードスケート・バンクーバー五輪銅メダル)

三澤 樹知 氏(新体操・北京五輪女子団体主将)・村田 久忠 氏(県スポーツ少年団本部長)

ランニングクリニックでは、県スポーツタレント発掘事業「YAMAGATAドリームキッズ」の選抜メンバーやスポーツ少年団の子どもたちが、3名の指導者からゲーム等を通して、楽しく走る指導を受けた。

トークセッションでは、オリンピックに出場した本県出身の3選手から、オリンピックを目指したきっかけや実際の体験談、山形の子どもたちへのメッセージを話してもらった。五輪出場の経験を持つ3名に共通していたことは、練習することが「当たり前」だという点。「学校や宿題等大変なこともあるが、五輪を目指すのなら、練習が当たり前になるくらい頑張ってみると、また違った強さが自分の中から生まれてくるのでは」との投げかけで締めくくられた。



～樹氷輝き 人つどい 未来につなげ 君の元気～

第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会

やまがた樹氷国体

平成26年2月21日(金)から24日(月)に、山形市と上山市を会場として、第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会が開催されます。

本大会のテーマ・スローガン・シンボルマークを全国に一般公募し、多数の応募作品の中から次のとおり決定しました。

〈テーマ〉 やまがた樹氷国体

山形らしい温もりあふれるおもてなしの心と、厳しい自然の中で力強く成長する樹氷のように一人ひとりの夢や希望が膨らむ大会にしたいという思いを表しています。

〈スローガン〉 樹氷輝き 人つどい 未来につなげ 君の元気

樹氷を抱く美しく雄大な自然の中で、選手たちの輝きとそこに集う人々のあたたかさが響き合い、そこで生まれる強い絆が、希望に満ちた未来につながる活力になってほしいという願いを込めています。

〈シンボルマーク〉

本大会の象徴である樹氷をモチーフに、選手たちとそこに集う人たちの一体感を表現しました。配色のグラデーションで、参加者の絆が強まり、その絆が輝く未来につながっていく様子を表わしています。

これらを活用して、本大会を山形らしい国体として全国に発信するとともに、大会を盛り上げてまいります。

べにばな国体開催20周年記念事業

「山形のスポーツ、躍進を目指」

《Part 1》「勝つことの意義」 ～競技力向上の基礎づくり～

平成24年4月24日(火)：山形県総合運動公園（天童市）

- ・講演「競技力向上に向けた取り組みについて考える」

講師：勝田 隆 氏（筑波大学客員教授・仙台大学教授）

- ・シンポジウム「勝つことの意義」

コーディネーター：大神 訓章 氏（山形大学教授・山大バスケットボール部監督）

パネリスト：齋藤 学 氏（左沢高校剣道部監督）・吉田 進 氏（山形城北高校陸上部監督）

佐藤 裕恒 氏（山形南高校バレーボール部監督）・木村 文浩 氏（谷地高校カヌー部監督）

椿 央 氏（山形中央高校スケート部監督）

JOC選手強化部常任委員でもある勝田隆氏が、山形県の競技力向上に向けた新たな取り組みについて、「二律背反」「情報戦略」「タレント発掘」の3つのキーワードを基に講演をした。

「スポーツ山形」が求める新たな姿は、スポーツを通して地域や国際社会に貢献できる「真のチャンピオン」の育成に関わっていると認識することが重要であることを指摘。

シンポジウムでは、本県高校スポーツ界の指導者が、強化策や指導者としての姿勢について意見を交換。共通する指導論は「人間性を高める」「信頼関係の構築」であり、チャンピオンの育成を目標に置きながらも、その過程には、勝つことの「教育的意義」を見出して指導することが大切であると確認し合った。



《Part 3》「広いスポーツ裾野からのトップアスリートの育成」 ～山形県全体のスポーツ振興～

平成24年11月23日(金)：「遊学館」大ホール（山形市）／山形グランドホテル

- ・講演「スポーツが持つ力」

講師：宮嶋 泰子 氏（株式会社テレビ朝日ディレクター兼アナウンサー）

- ・シンポジウム「広いスポーツ裾野からのトップアスリートの育成」

コーディネーター：佐藤 通隆 氏（県体育協会理事兼スポーツアドバイザー）

パネリスト：鈴木 朝夫 氏（寒河江市総合スポーツクラブ会長）・栗木 一博 氏（仙台大学体育学部教授）

永井 悟 氏（山形銀行人事部長）・佐久間陽子 氏（左沢高校教諭）

池田めぐみ 氏（県体育協会スポーツ指導員）

- ・「山形スポーツ飛躍の集い」（交流会）

アナウンサーとして多くのアスリート取材してきた宮嶋氏の「スポーツが持つ力」をテーマにした講演からスタートし、べにばな国体開催20周年記念事業のPart 3は幕を開ける。

続いて、「広いスポーツ裾野からのトップアスリートの育成」をテーマに、剣道で世界チャンピオンになった佐久間陽子氏、寒河江市総合型スポーツクラブ会長鈴木朝夫氏、他に県内のスポーツに縁のある3名のパネリストを迎え、コーディネーター佐藤通隆氏の進行でシンポジウムを開催。山形スポーツの更なる飛躍のために「それぞれの立場で目指すべきものとは？」について語り合う。

その後、会場を移して決起集会を行い、県内の多くのスポーツ関係者と共に未来に向けた本県スポーツ再興・飛躍へのスタートを切る。

山形県体育協会表彰

— 平成23年度功績（平成24年6月15日表彰式実施） —



殊 勲 賞

種 目	氏 名	所 属	主 な 成 績	
ス キ ー	山科 博史	丸光建設工業	第67回国民体育大会冬季大会 スキー競技会 アルペン大回転 成年男子A	優 勝
フェンシング	日下 夕佳	東京農業大学	2012年ジュニア・ワールドカップ・スウェーデン大会 ジュニア女子エペ	出 場
	土屋 さや	県立米沢東高校	2012年ジュニア・ワールドカップ・スウェーデン大会 ジュニア女子エペ	出 場
	戸田 顕崇	県立米沢興譲館高校	2012年世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会 カデ男子エペ個人	出 場
バイアスロン	高橋 哲也	陸上自衛隊	第48回バイアスロン競技日本選手権大会 スプリント10km 一般銃の部	優 勝

奨 励 賞

種 目	氏 名	所 属	主 な 成 績	
ス キ ー	高橋 利雄	米沢スキー場クラブ	第36回全日本マスターズスキー選手権いわて八幡平大会 大回転 85歳代 第1戦 1位 第2戦 1位	優 勝
	北川 征紀	酒田スキークラブ	第36回全日本マスターズスキー選手権いわて八幡平大会 大回転 75歳代 第1戦 1位	優 勝
	石黒 和子	酒田スキークラブ	第36回全日本マスターズスキー選手権いわて八幡平大会 大回転 75歳代 第1戦 1位 第2戦 1位	優 勝
	森 保二	村山スキークラブ	第36回全日本マスターズスキー選手権いわて八幡平大会 大回転 70歳代 第1戦 1位	優 勝
	清水 一宏	猿倉スキークラブ	第36回全日本マスターズスキー選手権いわて八幡平大会 大回転 30歳代 第1戦 1位 第2戦 1位	優 勝
水 球	山形水球クラブ		第34回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳 競技大会 水球競技 A区分（12歳以下男女の部）	優 勝
新 体 操	前田 明梨	山形市立蔵王第一小学校	第14回全日本新体操チャイルド選手権 第11回全日本新体操キッズコンテスト 2年生の部 フューチャー賞	優 勝

平成24年度 スポーツ功労者（県体協関係）

◆瑞宝中綬章

金森 義弘（元副知事・県体育協会会長）

◆旭日双光章

板垣 隆房（前県バドミントン協会会長）

◆文部科学大臣表彰

（生涯スポーツ功労者）

吉田 芳弘 長井市体育協会会長

長沼 千歳 県水泳連盟理事

（生涯スポーツ優良団体）

松川ジュニアアスリートクラブ

稲穂ファミリースポーツクラブ

◆日本体育協会表彰

（公認スポーツ指導者）

奥山 信之 寒河江市 水泳上級教師・水泳指導員

田勢 一雄 白鷹町 水泳指導員

庄司 秀己 山形市 水泳上級コーチ・水泳上級教師

（公認スポーツドクター）

結城 正明 山形市 ゆうき整形外科

毛利 勝也 山形市 わかばクリニック

◆東北総合体育大会功労者表彰

中村 直資 県弓道連盟事務局長

◆山形県教育功労者表彰

早坂 孝 日本社会人レスリング連盟会長

県体育協会副会長

山口 正己 県体育協会監事

◆日本スポーツ少年団顕彰

（市町村スポーツ少年団表彰）

三川町スポーツ少年団

（指導者表彰）

須貝 憲明（山形市） 奥山 敏夫（河北町）

島貫潤一郎（飯豊町） 佐藤 義彰（鶴岡市）

佐々木監督に県民栄誉賞

ロンドン五輪で、日本女子サッカー史上初となる銀メダルを獲得した日

本代表「なでしこジャパン」を率いた佐々木則夫監督（尾花沢市出身）が、九月県民栄誉賞を受賞しました。



「なでしこジャパン」がW杯ドイツ大会で金メダルを獲得してから一年、今夏のロンドン五輪で堂々の準優勝に輝きました。決勝トーナメントでは、ブラジル、フランス、カナダを制して臨んだアメリカとの対決に、リードされても最後まで力の限り戦ったなでしこの選手たちの姿は、日本全国、山形県民に喜びと感動を与えてくれました。チームを率いた佐々木監督の優れた指導力に敬意を表し、県内各地でサッカー指導を行うなど本県スポーツ振興に大きな役割を果たした功績を讃えての授賞でした。

県民栄誉賞の贈呈式終了後、佐々木監督は「受賞は身に余る光栄。山形県の子どもたちから、一人でも多くのアスリートが生まれてほしい。」と語っています。

これから、私たち県民に夢と勇気を発信し続けていただきたいと願っています。

アサヒビールとスポーツ振興支援協定

六月十五日、山形県体育協会第一回評議員会の開催時、会に先立ってアサヒビール山形支社（磯山智支社長）と県体育協会（金森義弘会長）がスポーツ振興支援協定を締結しました。

同社は、JOCゴールドパートナーとして販売しているオリンピック代表を応援する商品を、東日本大震災の復興支援につなげようと企画したもので、対象になる商品の販売額の一部を東北六県に分配して、スポーツ振興に活用してもらおうとするプロジェクトです。本県では、選手の育成・強化のほか、総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ活動支援などに充てる予定であります。

アサヒビール株式会社様からの善意に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、当協会は「スポーツを通して、健康で明るく活力に満ちた山形県づくり」を一層推進してまいります。



日本スポーツ少年団が創設50周年を迎えました

日本スポーツ少年団は、昭和三十七年六月二十三日に日本体育協会創立五十周年記念事業の一環としてスポーツによる青少年の健全育成を目的に創設され、今年、創設五十周年を迎えました。

去る六月二十三日には、秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと日本スポーツ少年団創設五十周年記念式典が開催され、サッカー国際審判員として活躍された上川徹氏による「記念講演」のほか、「スポーツから学んだもの」をテーマにスポーツ少年団員四名によるオリンピックアンの荻原健司氏（スキースノルディック）、小椋久美子氏（バドミントン）への「記念インタビュー」等が行われました。また、来年度は本県、山形県スポーツ少年団が五十周年を迎えます。

五十周年の節目にあたり、子どもたちや地域社会のニーズに応え地域に愛されるスポーツ少年団を目指すため、「県民総スポーツの中核を担うスポーツ少年団」「スポーツ少年団員の拡充・リーダーの養成」「指導者確保と資質の向上」等の新たな目標を設定し、スポーツ少年団の更なる飛躍を期して記念事業を実施する予定です。



人物紹介

自分を見つめる目が厳しくなれば
なるほど人には優しくなれる

天童カントリークラブ所属 権 純福



昭和二十五年生、天童市在住。二十四歳の時、仕事のストレス発散が目的でゴルフを始める。動かないボールが簡単に打てなかった悔しさ。それに勝る思い通りに打てないことへの面白さを覚えクラブを揃える。

「見て盗め」「ちゃんとあたるようになるまでコースには出るな」が常識の時代。時には八百発、雑誌を見ての見よう見真似の自己流で毎日のように練習。一年間の練習場ゴルフアーを卒業し、コースデビューと共に、ゴルフを競技としてとらえ、クラブチャンピオンを目指す。現在所属の天童CCオープンと共に入会し初代チャンピオンとなる。二十九歳で東北チャンピオンになり以後四度の優勝を達成する。初めての日本アマ選手権では、コースセッティングを変えるだけでコースの難易度が変化することを実感し、思考がコースへ挑戦するために技術・精神を鍛える方向へ変化。以後十六回日本アマ選手権に出場。三十八歳で日本アマ選手権七位、三十九歳で七位タイの記録を残す。

多くの全国のトッププレーヤーと接することにより「自分を見つめる目が厳しくなればなるほど人には優しくなれる。スコアや技術・競技歴などというものを前面にちらつかせるのではなく、そういうものを持つていけばこそ、周りの人たちに気を遣い、



ゴルフの愉しみを伝えていくことがより充実したクラブライフにつながる」と思うようになった。
現在六十二歳、今なおトッププレーヤーとして君臨。今年も、全国都道府県対抗競技、日本マスターズ競技へ山形県の代表として出場する。

競技団体ニュース

王国の再興を目指して

山形県ウエイトリフティング協会

会長 岡田 三郎

県内において本競技は昭和二十六年に山形大学の学生の中から芽吹き、昭和三十年に県協会設立に至りました。以来、山形のお家芸として多くの選手が全国大会はもとより国際大会の舞台で活躍しました。とりわけ、三度のオリンピック競技大会に延べ四名の選手を輩出したこと、昭和五十一年のインターハイにおける羽黒工業高校の団体優勝は「ウエイトリフティング王国山形」の一時代であったと自負しております。

その後、少子化や指導スタッフの世代交代などの影響もあり、なかなか全国で表彰台に立てない苦悩の時代が続きましたが、その中で今年三月の全国高校選抜における鶴岡工業高校剣持翼選手の三位入賞と、四月に行われた全日本選手権における三田村和真選手の準優勝は県内競技関係者の中に明るい希望を与えてくれました。両名共にこれから更に伸びていく選手ですので、楽しみにしているところです。

また、小学五年から高校三年までのジュニア育成の一環として、昨年度より鶴岡市羽黒体育館において「トレーニング教室」を展開しています。まだ浸透度は低いですが、協会として力を入れていきたい事業の一つです。

本競技は今夏行われたロンドンオリンピックにおいてメダル獲得など話題性も高まってきております。今後とも県協会が一丸となり、本競技の普及・強化に邁進していきたく、ご声援のほどよろしくお願い致します。



市町村体育協会だより

「健康で豊かなスポーツのまち南陽」を目指して

一般社団法人南陽市体育協会

会長 和田 廣

本協会は、昭和四十二年に創設、平成二十三年十一月一日から一般社団法人として新たなスタートを切る事になりました。

現在は、十九団体が加盟しておりそれぞれの団体が主体的に活動を行なっております。またスポーツ少年団や小体振、中体連、高体連などの関係団体とも連携をとりながら青少年の競技力向上や生涯スポーツの振興に努めております。

本協会は、平成二十一年度から二十三年度の三年、そして今年度から二期目となる市内体育施設の指定管理を受けることになりました。「スポーツでいい汗・いい顔・いい仲間」をスローガンに、体育館利用者拡大やスポーツを通しての健康づくりのため、十二のスポーツ教室やスポーツフェスティバル、ウォーキング講習会などを開催しております。キッズフットサル教室や陸上教室のような子供達を対象にした教室やフラダンス教室、エアロビクス教室など若い女性を対象にした教室、若返りトレーニング教室や健康体力向上教室のような高齢者の方にも参加して頂ける教室などそれぞれの年齢層に応じた教室になっております。それぞれの年齢層やライフスタイルに応じたスポーツ活動を楽しむことで、体力づくり、さらには生き甲斐づくりを推進し、「健康で豊かなスポーツのまち南陽」実現を目指して参ります。



公認スポーツ 指導者ノート

復活への「挑戦」

日本体育協会スポーツ指導員
(O.S.Cガールズスポーツ少年団代表)
ソフトボール指導員 齊藤 豊



これをきっかけに、平成二十三年度より尾花沢市に初の小学生の女の子を対象にスポーツ少年団を発足しました。

指導員として日が浅い為に毎日が子供達と勉強のくり返しです。コーチ陣、保護者の支援がとても大きく大変感謝している所です。

まだ発足して二年目ということで、試合をできる環境にはいたっていません。でも、週二〜三回の練習で子供達といっしょに汗を流しながら楽しく活動している所です。

最後に、私の地元の中学校すべてに、ソフトボール部がありません。私が中学生の頃はほとんどの学校にあったのです。それを復活させるのが私の挑戦です。少子化の為に部を増やす事は大変むずかしいと思います。

くしくもオリンピックからソフトボールが除外されています。日本はその復活を目指し、私もそれに負けないように、復活への挑戦をつづけます。



スポーツ指導員 池田めぐみ

私は約十年間、フェンシングの日本代表として日の丸を背負って戦ってきました。幸運にもオリンピックを二大会経験することができましたが、両膝前

十字靭帯損傷など怪我にも悩まされたアスリート人生でした。しかし大きな大会を経験したことや怪我を乗り越え復活した経験など、スポーツを通して学んだことは私を大きく成長させ、自分の人生を引退後も明るく照らしてくれています。そんな「スポーツの持つ力や素晴らしさを多くの人に知ってもらいたい」という気持ちをカタチにしたい。ということで、今年四月より県体協のスポーツ指導員として県内スポーツ競技団体や市町村体育協会、学校体育団体、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツに関連するものはもちろんのこと、スポーツを通じた地域づくりや健康づくりの要望などに応えていく活動をスタートしました。

現在まで総合型のプログラムの中で子ども対象の運動教室を行ったり、会員の方々とグラウンドゴルフを楽しんだり、またオリンピックに関連する講演や指導者対象の研修会等をさせて頂く機会を得てきました。



県体協は「スポーツを通して、健康で明るく活力に満ちた山形県づくりに貢献します」をスローガンに掲げて活動しています。私もこの活動を通して県民がもっと笑顔になるために少しでも貢献できればと思います。宜しくお願いします！

スポーツ指導員・技術員レポート

スポーツ技術員 久保 貴寛

今年度よりスポーツ技術員に任命されました久保貴寛です。

私の競技であるノルディックコンバインドは、スキージャンプとクロスカントリースキーの二種目の合計で勝敗を争い、勝者はキング・オブ・スキーと呼ばれます。

またスキージャンプの瞬発力、クロスカントリースキーの持久力という相反する能力を同時に強化する必要があります。ここがこの競技の難しいところでもあり、醍醐味でもあります。

今オフシーズンでは課題であるジャンプでの競技力向上を目指し、夏期より体幹トレーニングに取り組んできました。七月に北海道士別市朝日町で行われた第二十一回全日本サマーコンバインド朝日大会では四位入賞、秋田県鹿角市に行われた第二十三回全日本ローラーズスキー選手権大会では五位入賞と一定の効果を得ることができたと思います。

いよいよこれからシーズンが始まります。開幕戦は十二月下旬に北海道名寄市で行われます。オフシーズンの良い流れに乗り、良いパフォーマンスをしたいと考えています。

また、県内の選手とも積極的に交流をし、県内コンバインド選手の競技力の底上げに貢献できるような活動もしていきたいと考えています。



